

【6】 福島第一原子力発電所4号機での社員殉職の経緯

平成23年3月11日、14時46分、三陸沖を震源とする東北地方太平洋沖地震が発生し、その後、福島第一原子力発電所に史上稀に見る津波が襲来した。

その際、当社社員2名が、津波に巻き込まれ、殉職された。

尊い社員を失ったことに対し、平成23年4月3日に、会長の勝俣が声明を発表している。この【会長声明】を再掲するとともに、現時点で判明している当日の【確認事実】を、以下に記す。

【会長声明】

地震・津波に襲われながらも、発電所の安全を守ろうとした二人の若い社員を失ったことは、痛恨の極みであります。故人に対し、深くご冥福をお祈りすると共に、ご遺族の皆さまには謹んで哀悼の意を表します。

当社は、故人の尊い死に対して、二度とこのような悲劇を繰り返さないことを誓うと共に、福島第一原子力発電所の事故収束に向け、全身全霊をかたむけていく所存です。どうか安らかにお眠り下さい。

【現時点での確認事実】

- 地震発生（3月11日14:46）直後、3・4号機の中央制御室より補機当直員（6名）に対してページング（拡声器）で、サービス建屋内の管理区域入口の脇にある運転員控室への避難を指示。
- 地震発生直後30分程度の間、被災者2名を含む運転員は、現場作業員の管理区域からの避難を誘導した。
- 運転員（8名）が運転員控室に避難。
各運転員から中操に安否連絡があり、当該2名を含む運転員全員の安否を確認。
- 3号機が緊急停止（14:47）
中央制御室において、タービン補機冷却系のサージタンクレベル低下の信号を確認。
- 中央制御室から運転員に対し、現場調査の連絡。
運転員控室より、2名1班（3班体制、計6名）がそれぞれ、タービン建屋地下階・1階・2階に現場調査に向かった。被災者2名はタービン建屋の地下階へタービン補機冷却系のサージタンクレベルの調査に向かった。
なお、現場調査は、当直長の責任の下、実施されているが、当直長は地震後の

スクラム対応に専念しており、現場調査に向かった事実は、社員が現場出向後に、当直長に報告されている。

- 被災者2名から中央制御室に、EHCポンプ室にて漏洩を発見したとの連絡あり。
- 津波を監視していた作業管理副長が津波の襲来を確認し、中央制御室に口頭連絡。
※ 気象庁 大津波警報発令（14:49 高いところで3メートル程度以上）
- 中央制御室の当直員より、屋内外を問わず、特に海の近くにいた作業員に対し、ページングやPHSにて中操への避難を指示。
被災者2名とは連絡がつかなかった。
- 4号機のサービス建屋まで津波が到達（15:35頃）。この時点で地下階に津波が到達したと思われる。
- 4号機非常用D/G（非常用ディーゼル発電機）トリップ（停止）（15:39）。
4号機の放水口、大物搬入口、非常用D/G室天井を經由して地下階に一気に浸水し、水位は地下階の天井（約7メートル）まで到達したと思われる。

以 上